

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域の一人となり、認知症ケアのキーステーションとなって地域の方々が気軽に相談できるような体制をとっている、又ホーム理念にも取り入れホーム全体で地域に密着できるよう励んでいる。</p>	○	<p>理念を中心に地域でその人らしい生活が出来るよう心がけている。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎月のミーティングの中で理念にそったカンファレンスを行っている、理念の共有のためスタッフひとり一人が理念を携帯しすぐに見ることが出来るようになっている、又運営理念をフロアーに提示し、ご家族の方にも見ていただけるようになっている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>ホームの玄関表面、各フロアー、事務所等の目の付きやすい場所に表示している。</p>		
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近所の方々、近くの幼稚園、ホームの方に会った際には互いに挨拶をしている、又七夕祭り、阿波踊り、歌謡ショーなどホームの行事には近所の方や隣のホームの利用者さん、民生委員さん等が来られ、交流を深めている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入している、町内のお祭りや、行事に参加し地域の方々とより交流が出来るよう努めている。</p>	○	<p>町内会の老人会への参加、交流を進めている。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>当ホームにて様々な方が相談に来れるような対策をとっている、又玄関に看板を提示しわかりやすいようにしている。ご家族承認のもとに近隣に「ふれあい便り」を配布し、その中の「認知症Q&A」というコーナーをもうけ、高齢者の方、そのご家族の方に理解していただける様努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価及び外部評価が実施された後ミーティングを行い、改善すべき項目は皆で共有し、改善に努めている、又自己評価はスタッフ全員が書き、まとめている。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	包括支援センター、民生委員、市の介護保険課の方に出席していただき、サービスに対しての意見をいただき、ご家族の質問などにも答えていただきました、会議は2ヶ月に1回行っている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	小樽グループホーム協議会に加入している、又包括支援センターや介護保険課の方に相談し、サービスの質の向上に励んでいる。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者は研修などにて勉強している、当ホームでは数名成年後見人制度を活用され、後見人が付いている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	管理者は研修などで勉強している、ホームでは身体拘束委員会を設置し毎月のミーティングにて拘束、虐待はないかを確認し、意識の共有を図っている。	○	管理者だけではなく、職員も研修に参加していく。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所の際は事前に面談し、ホームへ見学し実際に食事をしていただいている。契約の際には読み上げ、一つ一つの項目に対し疑問を残されないように都度質問に答え、不安をもたれないように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の不満や苦情には本人の納得がいくように、スタッフが一对一にて対応し、安心していただけるように対応、対策している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月のお手紙にて、ご家族の身体状況及び最近の出来などを報告している、又「ふれあい便り」にて行事ごとや生活風景を写真を載せて送っている。人事、担当者の変更の際にはお手紙にて報告している。金銭管理に関しては毎月出納帳のコピーを送り確認、来訪された際には、出納帳にサインしていただいている。	○	ご家族に安心していただけるように、金銭管理については徹底している。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議、又はご家族様、家族会の会長さまより直接お話があります。その際には真摯に受け止め、納得のいくように説明し、必要があれば対策、改善をおこなっています。	○	よりご家族との距離を縮め、信頼し合える関係づくりに励みます。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のお手紙にて、ご家族の身体状況及び最近の出来などを報告している、又「ふれあい便り」にて行事ごとや生活風景を写真を載せて送っている。人事、担当者の変更の際にはお手紙にて報告している。金銭管理に関しては毎月出納帳のコピーを送り確認、来訪された際には、出納帳にサインしていただいている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状況や要望に対応できるような体制をとっている、又緊急時にはホーム長、フロア長がすぐに駆けつけられるような体制をとっている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営推進会議、又はご家族様、家族会の会長さまより直接お話があります。その際には真摯に受け止め、納得のいくように説明し、必要があれば対策、改善をおこなっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>管理者研修、レベルアップ研修の受講をしており、グループホーム協議会主催の研修会にも毎回参加し、スタッフのレベルアップに努めている、又介護福祉士、認知症ケア専門士などの取得も積極的に行われている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>小樽グループホーム協議会に加入し研修会に参加している、又運営推進委員会にて、包括支援センターの方や介護保険課の方に出席していただき、意見をきいている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の悩みや要望に対し、しっかりと話をきき納得、解決できるように努めている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>資格取得による手当の支給や、準社員への昇格がある。</p>	○
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用者が不安に思っている事や悩みなど一対一にて対応し本人が納得し安心していただけるように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前の面談にてご家族としっかりと話し、家族の構成や生歴や不安に思っている事を聴き、家族及び利用者本人のケアに役立てている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際に、本人・家族の望みに添った支援を心がけ、必要な場合は他のサービスも提案している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前のホーム見学や食事会を本人に体験していただく、又現入居者との交流をもたいただき、雰囲気を味わっていただき本人に見極めていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	家事や料理に関しては入居者の知恵を借りたり、実際にお手伝いをさせていただいている、又スタッフも皆さんの輪に入り交流を深める事によりスタッフ、利用者ともに話しかけやすい関係を作れるように努めている。	○	利用者、スタッフとの信頼関係は介護をしていく中でとても大切なことで、変わることなく良い関係を作れるよう励み続けます。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎月のお手紙や電話での相談にて利用者の支援について話し合っている、又来訪された際には利用者以外のお話をしたりと良好な関係を築けていると思います。	○	より家族のニーズや希望に添えるよう努めていきます。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	利用者と家族の関係、思いや生活史を知る事により、懐かしさを感じることやご家族と一緒に過ごせるようレクや企画を提案し、実行している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の通いなれた病院や美容室などは変わらずに継続し、関係が途切れないように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	人との交流が苦手な方には孤独感をもたれないようスタッフが間に入りフォローしている、又他の利用者へのフォローも忘れず、淋しさを感じないような支援をしている。	○	利用者同士のトラブルがない様に支援を続けて行きます。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後もご家族の相談を受けるなど、関係を切らずにつきあいをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の話や表情や定期的に行われるアセスメントにて利用者の意向の把握に努めている、又利用者一人ひとりに担当者がおり、利用者によりそえるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者や家族から失礼のない範囲で利用者の生活史を聴きケアに活かし、一人ひとりが安心して暮らせるように努めている。	○	これからも利用者が安心かつ笑顔で生活できるよう日々努力していきます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日行っている申し送りにてその日その日の利用者の現状を把握している、又特記事項は「フロア一日誌」に記入しスタッフ全員で情報の共有が出来るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の意向を尊重し作成している、又月に1度のカンファレンスや担当者との話し合い、モニタリングなど様々な情報をもとに本人にとってより良い介護計画を作れるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間設定は長期6ヶ月、短期3ヶ月としている、3ヶ月ごとにモニタリングを行い、毎月のカンファレンスにて随時意見を取り入れるように努めている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別日報に日々の様子(表情や言葉)を出来る限り細かく記入している、又個別に排泄、水分チェックを行い体調管理にも注意をはらっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院や美容室、その他利用者の希望に応えられる様、家族と相談しながら対応している、又提携病院では24時間の処置体制が出来ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者の安全のため警察、消防には避難訓練をするなど協力を得ている、又運営推進委員会では民生委員にも参加していただいている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要に応じ、地域包括支援センターや、市の介護保険課に相談している、ボランティアには時折来ていただいている、特に「うたごえ広場」では利用者の楽しみの時間となっている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じ地域包括支援センターの相談している、又運営推進会議にも参加していただき、アドバイスをもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人が以前からかかっていた病院など本人の望む病院にかかっている、かかりつけ医に悩んでいる場合はこちらから提案し、共に話し合いながら決めている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症についての知識を持つ医師にかかっており、常時相談できる体制をとっている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>提携病院は月二回の往診があり、利用者とは顔なじみの関係になっている、そのため気軽に相談できる関係が築けている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>体調不良にて入院された場合は医師と直接話す場を持っていただき、対応について相談している。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>主治医、家族を交え方針を決めており、スタッフ全員が共有し、家族との連絡を密にしている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>終末期のケアについてスタッフ全員が情報を共有しケアに取り組んでいる、痛みをとまわらないケアを心がけているが夜間の対応など不安を抱える部分もある。</p>	○	<p>今後主治医、家族とのより密な話し合いを行い、スタッフが安心してターミナルケアに取り組めるように頑張りたいです。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	希望などで住居を変えられる場合には利用者、家族が安心して移り住めるように、よく話し合い、移住先には情報を提供し、ダメージの軽減に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取扱いをしていない。	ひとりひとりの性格を知り、言葉かけや接し方に注意している、又本人の恥ずかしがることや嫌な事は最大限に配慮し声かけを行っている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	話の理解が難しい方には二者択一にて選んでもらう、選択することで納得のいくような支援を行っている。又話をする中での表情や話し方からも好みを見出し、好みに合った選択をできるように心がけている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の生活習慣を大切にし、その人ひとりひとりに寄り添ったケアを心がけている、食事の時間が違う方、トイレ誘導が必要な方もその方の意向に合わせてケアを行っている。	○	利用者一人一人に合ったケアをより実践できるようこれからも頑張っていきます。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の好みの洋服を選んでいただき、化粧されている方は毎日化粧をされている、又本人が希望する美容室へ行っていただいている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	ひとりひとりの好き嫌いを把握し、食事が楽しくなるように心がけている、又キッチンが居間から見えるため調理風景や匂いなどで食事が楽しみになるように心がけている。食後は皆さん自ら下膳していただき、食器拭きなどもして下さっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒やタバコ、おかしなど以前からの習慣や好みがある方には健康状態に合わせできる限り希望にそえるよう支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	毎日の排泄チェックから、排泄パターンを見出し、その時間ごろに声掛けをするように心がけている、又気を使った声掛けを心がけている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日、時間帯に関しては中々利用者一人一人の希望に合った入浴はできているとはいえないが、本人のその日の様子や体調に合わせてきめている、又拒否がある時には本人の気持ちを尊重し無理な入浴はしていない。	○	納得していただけるよう説明し、時間帯や曜日に関しては了解されている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人の眠気に合わせ、入眠されている。眠れないような時にはお話をするなど穏かに眠られるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活に張りが出るように、皆さんと過ごされている時に昔のことなどを話、楽しい時間を過ごせるようにきっかけづくりをしている、又昔によくやっていたことなどをしていた、生活の張りが出るように心がけている。	○	生活歴や得意なことを活かせるケアプランを計画していきたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の管理ができる方がいないため現在は金銭を本人で管理されている方はいません、利用者の訴えがあった際は納得されるように時間をかけて説明している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気のいい日や、本人の希望、体調に合わせて、外出の機会を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者から直接話があることはあまりないが、スタッフがきっかけを作り、みんなの希望に合った行事を提案している。毎年花見や七夕祭りなど家族と過ごせる場を作っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望があった場合は出来る限り電話できるようにしている、又それにあたり家族にも了承を得ている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人の来訪は多く、来訪された場合はゆっくり過ごしていただくために昼食を共にされるよう声をかけたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置し、毎月のミーティングにて拘束がないか確認している、又拘束マニュアルを作成し拘束とはどのようなものかすぐに見られるような体制を取っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室にスタッフ自身が鍵をかけることはありません、夜間利用者自身が不安で掛けられる方はいるが、外から開錠出来るようになっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者が集まるホールにはスタッフが必ず一人はいる体制をとり、行動が見られた際には見守りをし、状況に応じ何気ない声かけを心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	すぐに「ダメ」と答えを出すのではなく、今の現状で一番良い方法は何かを話し合い、出来る限り状態の維持に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりが知識を学んでいる。実際に事故があったときには再発防止を行うと共に、意識の再確認を行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	利用者一人ひとりの緊急マニュアルを作成し誰でもわかるような体制をとっている、訓練に関しては訓練を行っているが定期的ではない。	○	応急手当の訓練を行い、実践時に生かせるよう努めて行きたいです。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	向かいの「ラ・ナシカ」との協力にて緊急時の避難場所としている。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族には生活や病気などで今後起こる得るリスクについて話し合いをし、共に方向性を考えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日朝・夕の血圧測定を行っている。少しでも体調が優れない様子がある場合は継続的にバイタルチェックを行い情報を共有し、主治医に相談、指示をあおいている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方箋はいつでも見れる体制を取っている、服薬に関してはダブルチェックを行い、必ず服薬されたことを確認するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	薬だけに頼らず、食事や運動にも気を使い、排便を促している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食残が残る方や介助が必要な方、嚥下障害のある方は毎食後マウスケアを行い、清潔な状態を維持できるように支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりに合った食形態をとっている、定期的に栄養士の資格のある方にカロリーチェックをしてもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、予防の為に消毒を毎日行っている。	○	感染症が発生しないように、日々注意して予防に取り組んでいきます。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日布巾、まな板の塩素洗浄を行っている、又チェック表を作成し意識向上にも努めている。食材に関しては購入日を必ず記入し、いつ買った物が一目でわかるような体制をとっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関にベンチを設置したり、花壇に花を植えたりして、親しみの持てるような玄関作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースの清潔保持には常に心がけている、照明も明るすぎないような照明を使用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内の2箇所に憩いの場を設置し、スタッフ抜きの会話を利用者が楽しませている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が馴染みのあるものは危険がない場合を除き自由に置けるように支援している、又状況に応じ、家族と相談しながら環境の整備に努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	利用者の訴えを取り入れながら、不快にならないような環境整備に努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	壁やトイレには手すりが設置してある、又家具の配置にて安全かつ動きやすいように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	その人にあったことをしていただいている、戸惑っているときには、わかりやすく単発的に説明し、自分で出来るような支援を志している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑や、裏庭があり、利用者も利用できるようになっている、収穫の時期には利用者と共に収穫を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ②
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ②

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない ②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ①

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

利用者の意思、希望に寄り添った介護が実践できるように、ひとりひとりの性格などをしっかりと把握し、安心して笑顔のあるフロアにしていきます。